

日本発ドイツ便り：変な一日（前編）

ニュルンベルクから朝一番、駅に行って、いつもの通り切符売りの自動販売機で Bayem-Ticket（バイエルンチケット）を買いました。ボケボケな状態で「あれ？値上げした？」と思っていたら、購入したのは Bayem-Ticket。という、何のことやらわかりませんが、Bayem-Ticket（28 ユーロ¹）＝5 人まで使えるチケットで、1 人で動く時は Bayem-Ticket Single（20 ユーロ）というのを買わねばなりません。近くにいた係員の人に「間違った」と伝えると、「払い戻しには手数料がかかってもったいないから、誰か同じ方向に行く人を見つけたら良いと思う」と、なんともドイツ的な合理的なお答え。☺ その日は Regensburg に行く予定。Nürnberg から Regensburg までの直通列車（Bayem-Ticket は IEC とか IC とかの特急列車には使えません）は2時間に1本しか走ってないし、普通に払えば、片道で18.3 ユーロもするので、まあだれか一人くらいいるでしょう？と思ってちょっと早めにホームに行くと…。やっぱり「Bayem-Ticket?」と問いかけてくる人がいました！持ってるよ～。Regensburg まで。10 ユーロでいい？とすぐに商談成立。あとは、チケットにサインして、検札が来るまで、即席の「旅の仲間」と近くに座って、検札のときには「この人連れだから」と言えば良いのです。何回使っても、まあ、なんとも素敵な制度じゃないですか？

のどかな Bayern の田園風景を眺めながら、1 時間ちょっとで Regensburg へ。



いつも荘厳な大聖堂



いつも煙突から煙の上がる、大賑わいのドナウ河沿いの世界最古の焼ソーセージ屋さん。

¹ Bayem-Ticket の料金は 2010 年の時点です。2011 年 2 月現在、それぞれ 1 ユーロずつ値上げされています。



ドナウ河と石の橋。豊かな水量で、流れも速いです。

Die Donau
"Königin der Flüsse"

Lebensader von 200 Mio. Menschen.
Donauquelle ist die Breg
1078m ü. d.M.
Länge 2888 km, davon
2415 km schiffbar

Durchflossen werden
bis zum Schwarzen
Meer:

Deutschland	577km
Österreich	350km
Slowakei	172km
Ungarn	416km
Kroatien	137,5km
Serbien	588km
Rumänien	1075km
Bulgarien	471,5km
Ukraine	180 km
Moldawien	0,927km

ドナウ河というと、あの有名なワルツのお陰でウィーン、というイメージですが、一番長く流れるのがルーマニア→セルビア→ドイツ→ブルガリア→ハンガリー→オーストリアという順なんです。水源のドイツから、最後は黒海までつながる全長 2888 メートルの大河、Königin der Flüsse (ケーニギン・デア・フルッセ：河の女王。ちなみに同じくドイツの大河、ライン河は「父なる河」と呼ばれます。



やっぱり Regensburg といえばこの風景です。石の橋とドナウ河、大聖堂に旧市街。

旧市街の石畳を歩きながら、ランチはお気に入りのレストランで。



あ。これは夏の話なのでテラスが大賑わいです。
暑い日には、街行く人の4人に1人はアイスクリームをなめながら歩いている感じです。



そしてもちろんテラス席でランチ。



夏はもちろん、Pufferlinge (ピッファーリング) これは贅沢に Steinpilz (シュタインピルツ) と2種類の

高級キノコのクリーム煮。初夏のごちそうです。パンのKnödel（クヌーデル：ジャガイモやパンで出来ただんご。フランケンではKloß：クロースと呼びます。）がとってもバイエルンな感じです。

で、どこが「変？」とそろそろ思っている方もいらっしゃると思います。

ここまでは良かったんです。

が、なんせ Regensburg と Nürnberg の直通列車は2時間に1本。あと2時間遊んで、1本後の列車に乗るか？次に来る列車に乗るか？

ここで、変なことを思いつきました。

せっかく Bayem-Ticket を持っているんだから、明日行く予定にしていた Bamberg も今日行ってしまったらどうか？交通費丸儲けではないか？？と。

（どうもまだ Bayem-Ticket を間違っ買って、損した気分だったみたいです。☺）

そんなこんなで後篇に続きます。



お馴染みの定点観測。これはある寒ーい雪の日に。